

特定健診提出用データ（XML・CSV）チェックツール
操作説明書

（第2. 1版）

令和6年4月

日本学校振興・共済事業団

目次

第1章 はじめに	3
1. 特定健診診査結果データについて	3
2. 提供機能について	3
2. 1 特定健診提出用データ（XML）の入力内容チェック機能.....	3
2. 2 特定健診提出用データ（CSV）の入力内容チェック機能.....	3
2. 3 内訳報告書作成機能.....	3
2. 4 ラベル記入例作成機能	3
3. 問い合わせ先について	3
第2章 動作環境について	4
1. ハードウェア環境	4
2. ソフトウェア環境	4
第3章 初めてお使いになる場合	5
1. インストールについて	5
1. 1 新規（更新）インストール	5
1. 2 復元インストール	8
2. 初回起動.....	10
2. 1 セキュリティ警告が表示された場合	10
2. 2 セキュリティリスクが表示された場合.....	10
第4章 本ソフトウェアについて	11
1. 処理の流れ	11
2. ツール仕様について.....	14
2. 1 メニュー	15
2. 2 エラーログ	17
3. 出力ファイルについて	18
3. 1 「内訳報告書」ファイル.....	18
4. 操作例.....	22
4. 1 健診結果チェックから私学事業団への送付まで	22
5. 電子媒体仕様.....	34
5. 1 CD-R.....	34
別添1 文字コードについて	35
別添2 特定健診提出用データ暗号化ツールについて	37

第1章 はじめに

1. 特定健診診査結果データについて

私学事業団へ提出する特定健診診査結果データ（以降、特定健診提出用データ）を作成する際に本ソフトウェアを使用することにより、データの不備等を検出し、送付前に予め修正することで、返送を減らしスムーズな登録が可能となります。

本操作説明書をご一読いただき、ぜひご活用ください。

2. 提供機能について

2. 1 特定健診提出用データ（XML）の入力内容チェック機能

学校法人等が健診機関等より受領した特定健診提出用データ（XML）のチェックを私学事業団への送付前に事務担当者ご自身で行うことが可能となります。

2. 2 特定健診提出用データ（CSV）の入力内容チェック機能

学校法人等が健診機関等より受領した特定健診提出用データ（CSV）のチェックを私学事業団への送付前に事務担当者ご自身で行うことが可能となります。

2. 3 内訳報告書作成機能

特定健診提出用データを基に記入項目の一部（学校記号番号、データ件数など）を機械的に出力しますので、事務担当者による記入の手間を省くことができます。

2. 4 ラベル記入例作成機能

私学事業団に電子媒体を送付する際にラベルへ記入していただく内容をイメージで出力するため、電子媒体への書き写しが容易になります。

3. 問い合わせ先について

不明点がありましたら、以下の連絡先へお問い合わせください。

共済事業本部 福祉部保健課 健康管理係

03（3813）5321（代表）

第2章 動作環境について

本ソフトウェアを使用するためのパソコン動作環境を示します。

1. ハードウェア環境

CPU	:	Windows10(64bit)の最小仕様要求以上を推奨（1.0GHz 以上）
メモリ	:	Windows10(64bit)の最小仕様要求以上を推奨（2.0GB 以上）
空きディスク容量	:	10MB以上を推奨
画面	:	解像度 800 ドット×600 ドット以上を推奨
プリンタ	:	A4用紙が出力できるプリンタ

2. ソフトウェア環境

OS	:	以下の OS に関しては動作確認済みです。 Windows10、Windows11
Microsoft Excel	:	以下のバージョンに関しては動作確認済みです。 Excel2016(64bit)、Excel2021(64bit)

<商標に関する表示>

Windows10、Windows11、Excel2016、Excel2021 は
米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における商標または登録商標です。

※同時にインストールされる「特定健診提出用データ暗号化ツール」は動作環境が異なる為、別添2を合わせてご確認ください。

第3章 初めてお使いになる場合

1. インストールについて

本ソフトウェアを使用する場合、以下の手順に従いインストール作業を行ってください。

なお以下の例は、私学事業団のホームページからダウンロードしたインストーラ「SgkKnsn64.msi」をデスクトップ上に保存している場合を想定したものとになっています。

1. 1 新規（更新）インストール

初めてのインストールまたはバージョンアップを理由とする2回目以降のインストールである場合、以下の手順でインストールを行います。

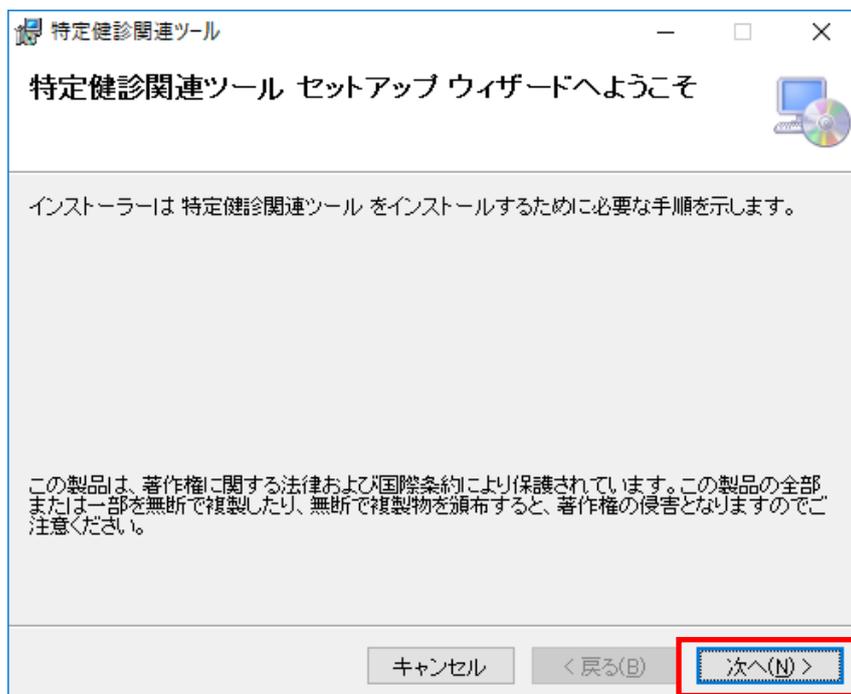
ただし令和6年度からソフトウェア名称が変更されている為、旧ツール（令和5年度以前のツール）の自動アンインストールが実施されません。

旧ツールが不要である場合は、別途アンインストールを行ってください。

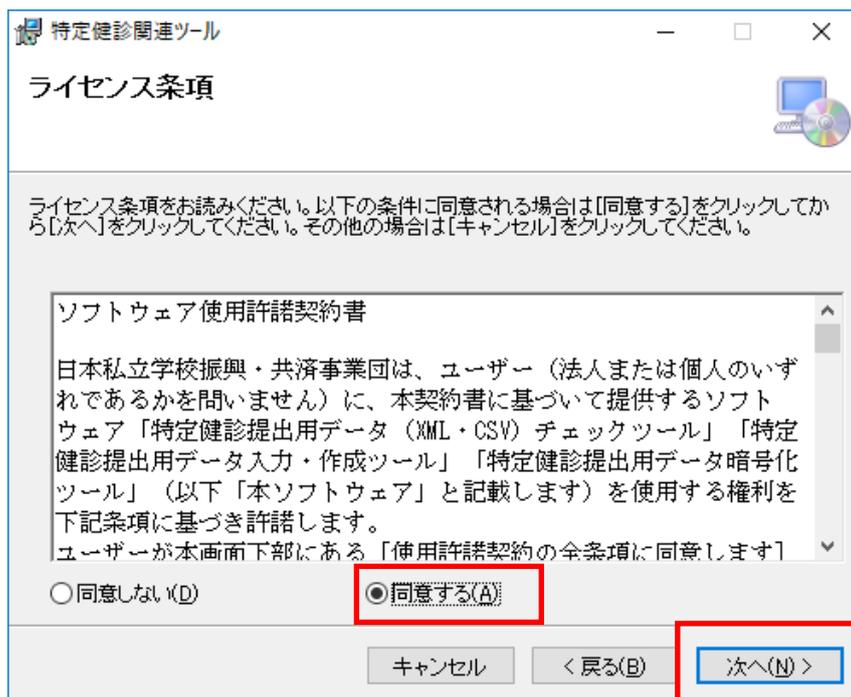
(1) インストーラ「SgkKnsn64.msi」をダブルクリックします。



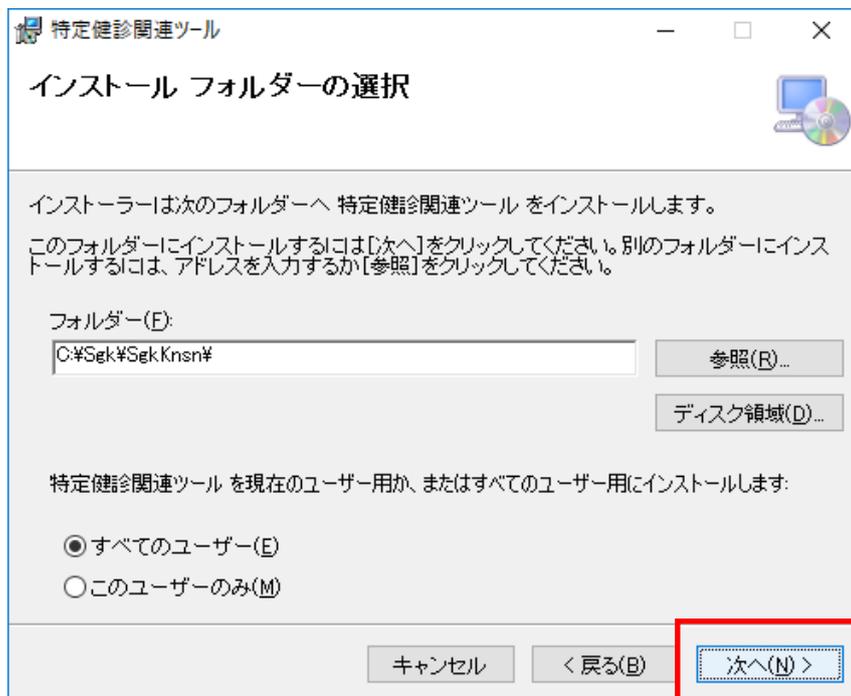
(2) 以下の画面が表示されるため、[次へ] を押下します。



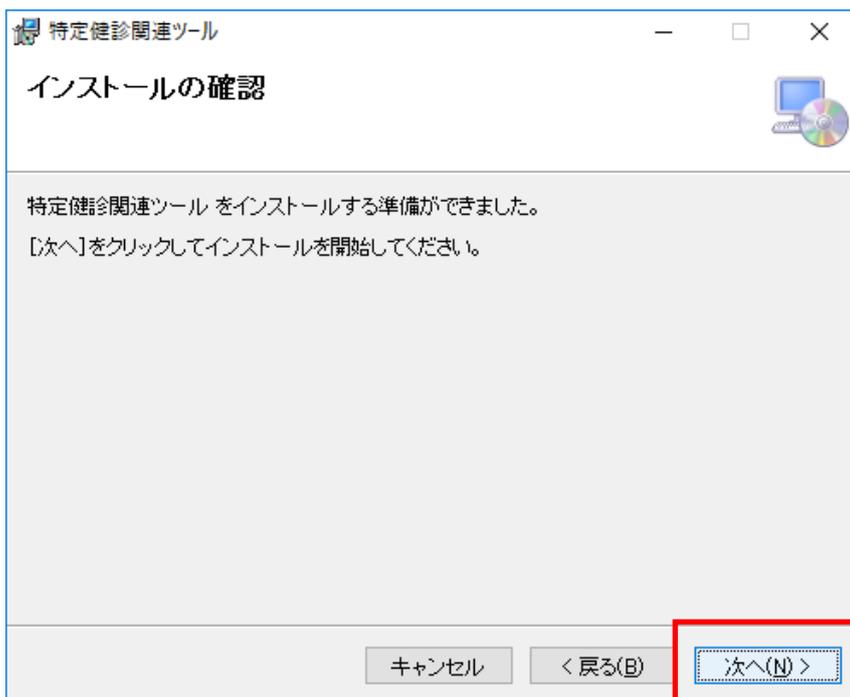
(3) 以下の画面が表示されるため、[同意する]を選択し、[次へ]を押下します。



(4) 以下の画面が表示されるため、[次へ]を押下します。

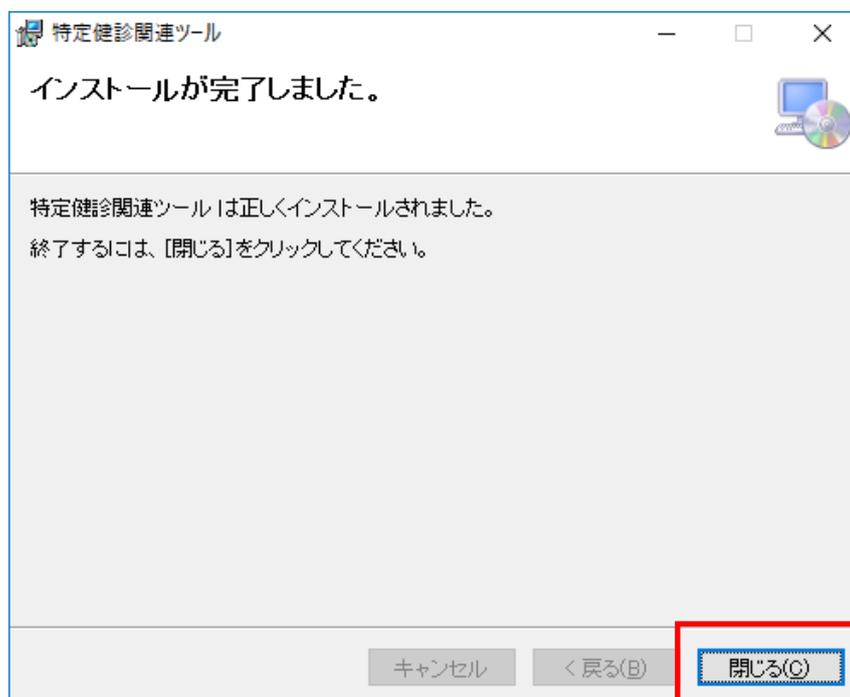


(5) 以下の画面が表示されるため、[次へ] を押下します。



(6) 以下の画面が表示されるとインストール完了です。

[閉じる] を押下して処理を終了します。



1. 2 復元インストール

誤操作等で本ソフトウェアが削除された場合や機能しなくなった場合など、インストール直後の状態に復元を行う場合は、以下の手順で行います。

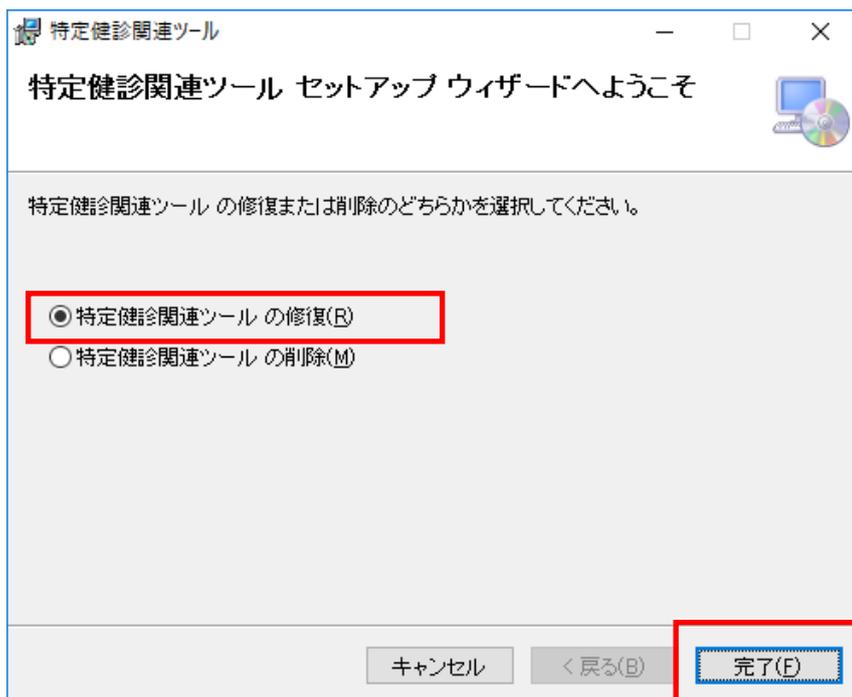
ただしパッケージ単位で処理が行われるため、以下のソフトウェアが全て復元されます。

- 特定健診提出用データ（XML・CSV）チェックツール
- 特定健診提出用データ入力・作成ツール
- 特定健診提出用データ暗号化ツール

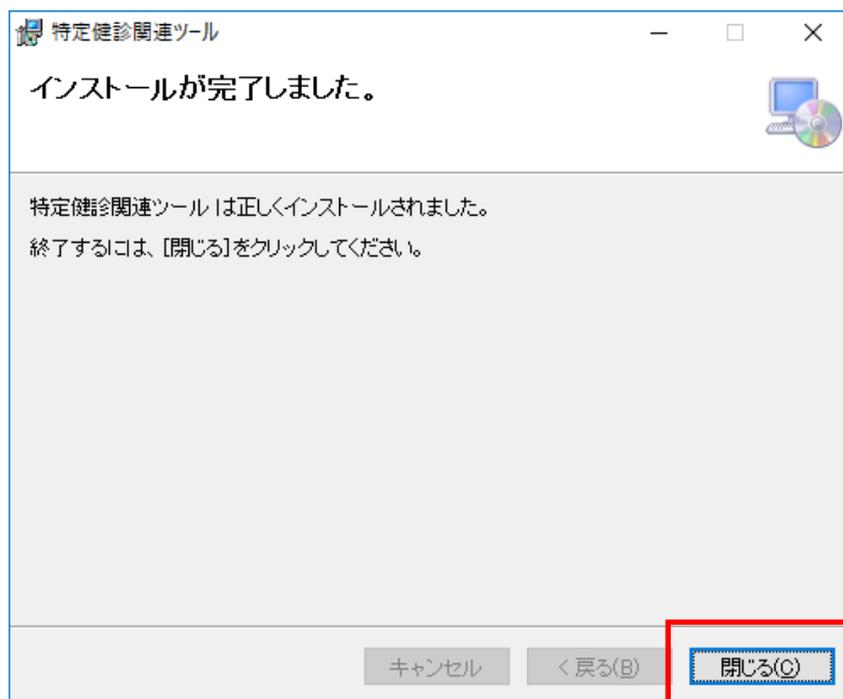
(1) インストーラ「SgkKnsn64.msi」をダブルクリックします。



(2) 以下の画面が表示されるため、[～の修復]を選択し、[完了]を押下します。



- (3) 以下の画面が表示されると復元完了です。
[閉じる] を押下して処理を終了します。



2. 初回起動

パソコンの設定によっては本ソフトウェアを起動するとセキュリティ警告（図2. 1）とセキュリティリスク（図2. 2）が表示される場合があります。

以下の手順を行うことで、本ソフトウェアをご利用いただくことが可能となります。

※メッセージはパソコン設定により変わることがあります。

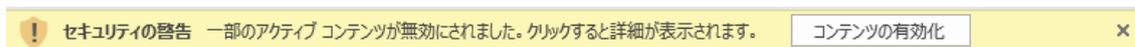


図2. 1 セキュリティ警告



図2. 2 セキュリティリスク

2. 1 セキュリティ警告が表示された場合

- (1) 「コンテンツの有効化」ボタンをクリックします。
- (2) セキュリティの警告（図2. 1）の表示が消えていれば使用可能となります。

2. 2 セキュリティリスクが表示された場合

- (1) 本ソフトウェアのプロパティを表示します。
- (2) 「全般タブ」のセキュリティ記述（※1）の「許可する」にチェック（✓）します。
- (3) 「適用」ボタンを押下します。
- (4) 本ソフトウェアを起動し、セキュリティリスク（図2. 2）が表示されなければ使用可能となります。

※ セキュリティ記述

このファイルは他のコンピュータから取得したものです。

このコンピュータを保護するため、このファイルへのアクセスがブロックされる可能性があります。

第4章 本ソフトウェアについて

1. 処理の流れ

本ソフトウェアを使用した業務処理の流れは以下の通りとなります。

項番	作業項目	作業内容
1	 本ソフトウェア起動	デスクトップ上の以下のショートカットをダブルクリックします。 <ショートカット名> 特定健診提出用データ (XML・CSV) チェックツール
2-1	 データチェック	<実施年度の選択> 「メニュー」シート上の実施年度のプルダウンからチェック対象の特定健診提出用データの実施年度を選択します。 ※2008～2050 年度
2-2	 提出用	<処理実行> チェック対象の特定健診提出用データのフォーマットから以下のいずれかのボタンを押下します。 ・[XML ファイルチェック実行]ボタン ・[CSV ファイルチェック実行]ボタン
2-3		<ファイル選択> ファイル選択ダイアログが表示されるため、特定健診提出用データを選択します。
2-4		<入力内容チェック> 選択された特定健診提出用データの各種チェックが行われ、チェック結果がダイアログに表示されます。
3-1	 結果確認	<エラーログの確認> ※エラーが存在しない場合、実施不要 チェック結果にエラーが1件以上存在する場合、「エラーログ」シートに詳細が表示されるため、エラー内容の確認を行います。
3-2		<データ修正> ※エラーが存在しない場合、実施不要 チェック対象となった特定健診提出用データの制作元の健診機関等に連絡し、修正を行います。

項番	作業項目	作業内容
3-3		<再実行> ※エラーが存在しない場合、実施不要 修正した特定健診提出用データでデータチェック処理の再実行を行います。
4-1	データ出力	<処理実行> [提出用データ等出力]ボタンを押下します。
4-2	提出用等	<出力先選択> フォルダ参照ダイアログが表示されるため、提出用データ等の出力先を選択します。
4-3		<出力確認> 処理完了ダイアログに提出用データ等の出力パスが表示されるため、[～内訳報告書.xlsx]が出力されていることを確認します。
5	本ソフトウェア終了	「メニュー」シートの[終了]ボタンを押下します。
6	暗号化ツール起動	デスクトップ上の以下のショートカットをダブルクリックします。 <ショートカット名> 特定健診提出用データ暗号化ツール
7	前提チェック	メニュー画面の前提チェックボックスをチェック(✓)します。
8-1	暗号化	<処理実行> 項番2でチェック対象となった特定健診提出用データのフォーマットから以下のいずれかのボタンを押下します。 <ul style="list-style-type: none"> • [XML ファイル暗号化の実行]ボタン • [CSV ファイル暗号化の実行]ボタン

項番	作業項目	作業内容
8-2		<p><ファイル選択> ファイル選択ダイアログが表示されるため、項番2でチェック対象となった特定健診提出用データを選択します。</p>
8-3		<p><暗号化> 選択された特定健診提出用データの暗号化が行われます。</p>
8-4		<p><出力確認> 暗号化済特定健診提出用データの出力先が処理完了ダイアログに表示されるため、該当ファイルが存在することを確認します。</p>
9		<p>「メニュー」シートの[終了]ボタンを押下します。</p>
10-1		<p><保存> 項番8で出力された暗号化済特定健診提出用データを電子媒体（CD-R または USB）に保存します。</p>
10-2		<p><ラベル作成> 項番4で出力された[~内訳報告書.xlsx]のラベル記入例シートを参照し、ラベルの作成を行います。</p>
11		<p>項番4で出力された[~内訳報告書.xlsx]の内訳報告書シートの必須項目を編集し、印刷を行います。</p>
12		<p>項番10で作成した電子媒体と項番11で印刷した内訳報告書および提出書類を併せて私学事業団宛に送付します。</p>

2. ツール仕様について

本ソフトウェアは特定健診診査結果データのチェックから提出用データ等の作成に使用します。

各シートの詳細は対応する項番を参照してください。

項番	シート名	内容	対応項番
1	メニュー	健診結果データのチェック実行、提出用データ等の作成時に使用します。	2. 1
2	エラーログ	入力チェックにて検出したエラー、警告を表示します。	2. 2

2. 1 メニュー

(1) イメージ

特定健診提出用データ(XML・CSV)チェックツール ver.1.2.0

実施年度 : 2024 年度

※医療機関に作成を依頼している場合は、ファイル形式(XML、CSV)を医療機関に確認のうえ当該ファイル形式に対応するチェックボタンを選択してください。

XMLファイルチェック実行	厚生労働省指定のフォーマットで作成されたXMLファイルのチェックを行います。
CSVファイルチェック実行	私学事業団が利用する「共同情報処理システム」への登録用フォーマットで作成されたCSVファイル(899項目)のチェックを行います。
提出データ等出力	全てのデータについて問題がなければ本ボタンをクリックしてください。 内訳報告書・ラベル(記入例)の出力を行います。

終了

(2) 表示項目

項番	項目名	内容
1	バージョン情報	本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

(3) 入力項目

項番	項目名	内容
1	実施年度	特定健康診断の実施年度を選択してください。

(4) 動作

項番	項目名	内容
1	[XML ファイルチェック実行]ボタン 押下	<p>特定健診提出用データ (XML) のチェックを行います。</p> <p>① ファイル参照ダイアログが開きます。</p> <p>② チェック対象となる特定健診提出用データ (XML) を選択し、[開く]ボタンを押下します。</p> <p>③ ②で選択したファイルが解凍され、入力内容チェックが行われます。</p> <p>④ ③でエラーが発生した場合、「エラーログ」シートにエラー内容を出力します。</p> <p>⑤ チェック終了後、処理結果ダイアログに入力件数、エラー件数が表示されます。</p>
2	[CSV ファイルチェック実行]ボタン 押下	<p>特定健診提出用データ (CSV) のチェックを行います。</p> <p>① ファイル参照ダイアログが開きます。</p> <p>② チェック対象となる特定健診提出用データ (CSV) を選択し、[開く]ボタンを押下します。</p> <p>③ ②で選択したファイルの入力内容チェックが行われます。</p> <p>④ ③でエラーが発生した場合、「エラーログ」シートにエラー内容を出力します。</p> <p>⑤ チェック終了後、処理結果ダイアログに入力件数、エラー件数が表示されます。</p>
3	[提出データ等出力] ボタン押下 ※1	<p>内訳報告書等の出力を行います。</p> <p>① 内訳報告書等を作成し、指定されたフォルダに出力します。</p> <p>② 処理結果ダイアログに保存先のフルパスを表示します。</p>
4	[終了]ボタン押下	<p>本ソフトウェアを終了します。</p> <p>① 変更が存在しない場合、終了メッセージが表示されるため、[OK]ボタンを押下してください。</p> <p>② 変更が存在する場合、名前を付けて保存ダイアログを表示します。 [保存][保存しない][キャンセル]ボタンのいずれかを選択し、押下してください。</p>

※1 データチェックの実行結果に警告およびエラーが存在しない場合のみ実行可能

2. 2 エラーログ

(1) イメージ

「エラーログ」シートを開くと以下のような画面が表示されます。

項番	レコード No	被保険者等記号 (学校記号番号)	被保険者等番号 (個人番号)	エラー対象者名	エラー項目名	設定値	エラー/警告内容
1	1	12B0001	00011	ケンシン タロウ	10 BMI、11 腹囲、12 内臓脂肪面積	20.0	腹囲または内臓脂肪面積に入力が必要です。 (BMIが20未満の場合は省略可)
2	5	12B0001	00015	ケンシン タロウ	27 他覚症状		入力されていません。
3	13	12B0001	00023	ケンシン タロウ	32 自覚症状所見		入力されていません。(所見の記載がない場合は「自覚症状あり」と入力してください)

(2) 表示項目

エラーまたは警告が発生した健診結果について、以下を出力します。

項番	項目名	内容
1	項番	「エラーログ」シート上の項番を表示します。
2	レコード No	「健診結果・質問票項目」シート上の項番を表示します。
3	被保険者等記号 (学校記号番号)	「健診結果・質問票項目」シート上の「学校記号番号」を表示します。
4	被保険者等番号 (個人番号)	「健診結果・質問票項目」シート上の「個人番号」を表示します。
5	エラー対象者名	「健診結果・質問票項目」シート上の「カナ氏名」を表示します。
6	エラー項目名	健診結果の項目名を表示します。
7	設定値	入力データを表示します。
8	エラー/警告内容	エラーまたは警告の内容を表示します。

3. 出力ファイルについて

「メニュー」シートの「提出データ等出力」ボタンを押下することで、以下のファイルが出力されます。

3. 1 「内訳報告書」ファイル

以下のシートを含むエクセルファイルになります。

各シートの詳細は対応する項番を参照してください。

項番	シート名	内容	対応項番
1	内訳報告書	特定健康診査結果データの提出内訳報告書になります。 印刷して必要事項を記入し、私学事業団へ提出してください。	3.1.1
2	ラベル記入例	私学事業団へ提出するデータを格納した電子媒体に貼付、または記入するラベル例を記載しています。	3.1.2

ファイル名：チェック対象ファイル名から拡張子を除き、「_内訳報告書.xlsx」を付加。

3. 1. 1 「内訳報告書」シート

(1) イメージ

「内訳報告書」シートを開くと以下のような画面が表示されます。

令和 年 月 日			
日本私立学校振興・共済事業団 理事長殿			
学校法人等名 _____			
代表者名 _____			
令和6年度 特定健康診査結果データの提出内訳報告書			
標記の件について、下記のとおり報告します。			
1. 学校名等			
学校記号番号	学 校 名		
13A9999	_____		
_____	_____		
_____	_____		
_____	_____		
_____	_____		
ほか	校		
2. 提出媒体及びデータ件数			
電 子 媒 体	データ形式	媒体枚数	データ件数
<input type="checkbox"/> CD-R	<input checked="" type="checkbox"/> XML <input type="checkbox"/> CSV	枚	6 件
<input type="checkbox"/> USB	<input type="checkbox"/> EXCEL		
ウイルスチェック(提出の際は、必ずウイルスチェックをしてください)			<input type="checkbox"/> チェック済
3. 添付書類(下記書類を添付する場合のみ記入して下さい)			
特定健康診査除外(該当者・不該当者)報告書 _____ 枚			
特定健康診査受診券(返送分) _____ 枚			
<small>※被扶養者の認定が取り消しとなった場合や人間ドックを受診した場合などで「受診券」を使用しなかったときは、私学事業団に返送してください。</small>			
4. 連絡先			
〒 _____	住 所 _____		
	名 称 _____		
	担当者 _____	TEL _____	
ver.1.2.0			

(2) 自動設定項目

項番	項目名	設定内容
1	実施年度	メニューで選択した実施年度を和暦に変換して設定します。
2	学校記号番号	レコードを順に読み込んだ際に出現する学校記号番号のうち、最初から5校目までを設定します。
3	ほか(校)	学校記号番号に値を設定できなかった分の校数を設定します。
4	データ形式	送付するデータの形式を出力します。 XMLチェック時：XMLにチェック(✓)が入ります。 CSVチェック時：CSVにチェック(✓)が入ります。
5	データ件数	送付するデータの件数を出力します。
6	バージョン情報	内訳報告書を作成した本機能のバージョンを出力します。 (印刷すると右下隅に出力されます)

(3) 必須項目

項番	項目名	設定内容
1	作成年月日	内訳報告書の作成日を記入してください。
2	学校法人等名 代表者名	学校法人等名、代表者名を記入してください。
3	学校名	学校名を記入してください。
4	電子媒体	CD-Rの場合は「CD-R」にチェック(✓)を入れてください。 USBの場合は「USB」にチェック(✓)を入れてください
5	媒体枚数	送付する媒体の枚数を記入してください。
6	ウイルスチェック	電子媒体のウイルスチェックを行い、チェック(✓)を入れてください。
7	特定健康診査除外 (該当者・不該当者)報告書	特定健康診査除外(該当者・不該当者)報告書の添付がある場合は、その枚数を記入してください。
8	特定健康診査受診券 (返送分)	特定健康診査受診券(返送分)の添付がある場合は、その枚数を記入してください。
9	連絡先	連絡先を記入してください。

3. 1. 2 「ラベル記入例」シート

(1) イメージ

「ラベル記入例」シートを開くと以下のような画面が表示されます。
提出用データを保存した電子媒体のレーベル面（≠記録面）に直接書き写してください。
※USBなど直接の記載が難しい場合、タグをつけるなどしてそこに書き写してください。

CD-Rの場合



(2) 表示項目

項番	項目名	内容
1	学校法人名	空欄で出力されますので、媒体へ書き写す際には学校記号番号に対応する学校法人名を記入してください。
2	学校記号番号	1校目の学校記号番号およびそれ以外の校数を出力します。
3	実施年度	特定健康診断の実施年度を出力します。
4	レコード件数	健診データの件数を出力します。

4. 操作例

4. 1 健診結果チェックから私学事業団への送付まで

本ソフトウェアの起動

(1) 本ソフトウェアの起動（共通処理）

デスクトップからショートカット「特定健診提出用データ(XML・CSV)チェックツール」をダブルクリックし、本ソフトウェアを起動してください。



データチェック

(2) データチェック

① 実施年度を選択

「メニュー」シート上の実施年度のプルダウンからチェック対象の特定健診提出用データの実施年度を選択してください。

特定健診提出用データ(XML・CSV)チェックツール ver.1.2.0

実施年度 : 2024 年度

※ 医療機関に作成を依頼している場合は、ファイル形式(XML、CSV)を医療機関に確認のうえ当該ファイル形式に対応するチェックボタンを選択してください。

XMLファイルチェック実行	厚生労働省指定のフォーマットで作成されたXMLファイルのチェックを行います。
CSVファイルチェック実行	私学事業団が利用する「共同情報処理システム」への登録用フォーマットで作成されたCSVファイル(899項目)のチェックを行います。
提出データ等出力	全てのデータについて問題がなければ本ボタンをクリックしてください。内訳報告書・ラベル(記入例)の出力を行います。

終了

② 処理実行

チェック対象の特定健診提出用データのフォーマットに該当する処理を実行してください。

厚生労働省指定フォーマット (XML) の場合 … ③へ

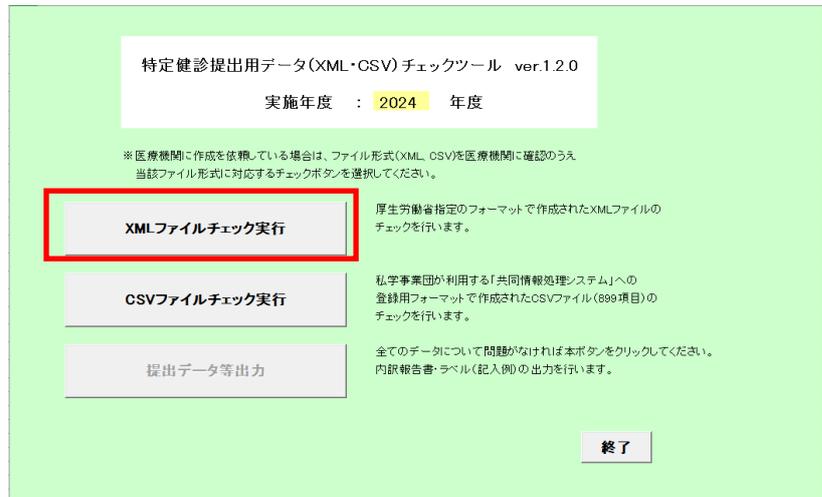
共同情報システム登録用フォーマット (CSV) の場合 … ④へ

データチェック

③ 厚労省指定フォーマット（XML）の場合

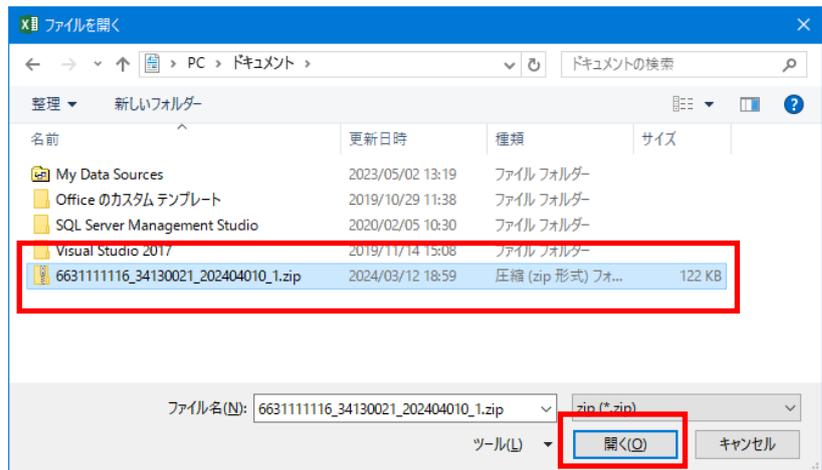
③-1 厚労省指定フォーマット（XML）処理実行

[XML ファイルチェック実行]ボタンを押下してください。



③-2 ファイル選択

特定健診提出用データ（XML）を選択し、[開く]ボタンを押下してください。

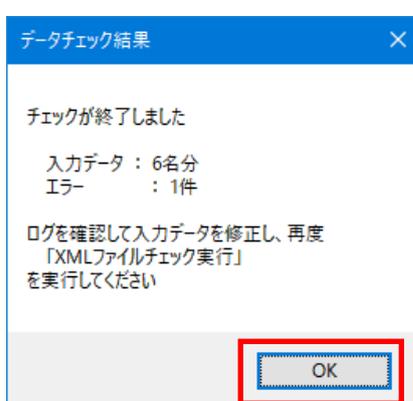


データチェック

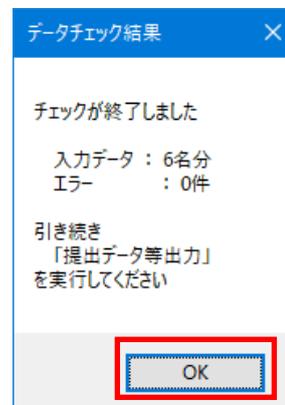
③-3 入力内容チェック

選択した特定健診提出用データ（XML）のチェックが行われ、結果がダイアログに表示されます。

結果を確認し、[OK]ボタンを押下してください。（⑤へ）



③-3A エラーあり



③-3B エラーなし

④ 共同情報システム登録用（CSV）の場合

④-1 共同情報システム登録用（CSV）処理実行

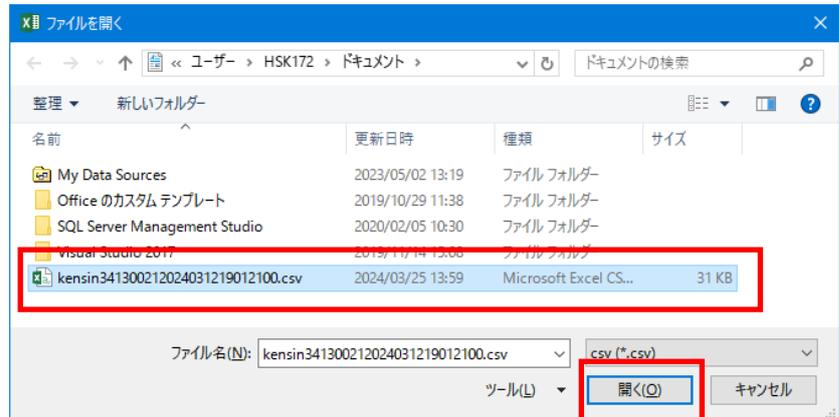
[CSV ファイルチェック実行]ボタンを押下してください。



データチェック

④-2 ファイル選択

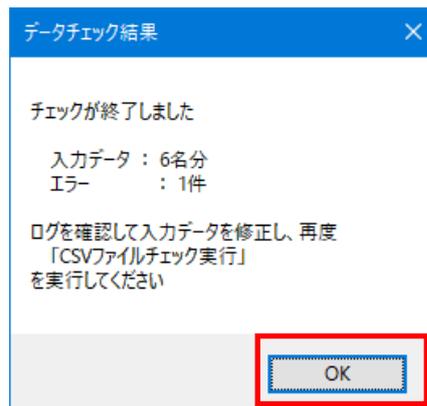
特定健診提出用データ（CSV）を選択し、[開く]ボタンを押下してください。



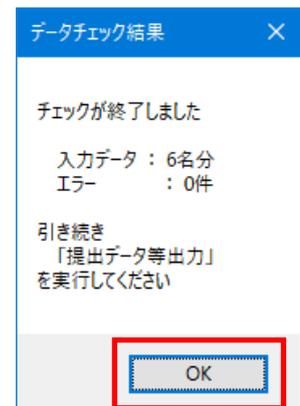
④-3 入力内容チェック

選択した特定健診提出用データ（CSV）のチェックが行われ、結果がダイアログに表示されます。

結果を確認し、[OK]ボタンを押下してください。



④-3A エラーあり



④-3B エラーなし

結果確認

(3) 結果確認 ※エラーが存在しない場合、実施不要

① エラーログの確認

チェック結果にエラーが1件以上存在する場合、「エラーログ」シートに詳細が表示されるため、エラー内容の確認を行います。

エラーログ内容

項番	レコードNo./ファイル名	被保険者等記号 (学校記号番号)	被保険者等番号 (個人番号)	エラー対象者名
1	h6631111162024040101000001.xml	13A9999	00003	サンプルタロウ

(↓続き)

エラー項目名	設定値	エラー内容
尿糖定性関連、尿蛋定性正関連 測定不可能・検査未実施の理由		尿検査の全項目または測定不可能・検査未実施の理由(男性の場合は1以外)の入力が必須となります。

② データ修正 ※エラーが存在しない場合、実施不要

チェック対象となった特定健診提出用データの制作元の健診機関等に連絡し、修正を行います。

③ 再実行

特定健診提出用データの修正が完了したら、(2)からやり直します。

データ出力

(4) データ出力

① 処理実行

[提出用データ等出力]ボタンを押下してください。

特定健診提出用データ(XML・CSV)チェックツール ver.1.2.0
実施年度 : 2024 年度

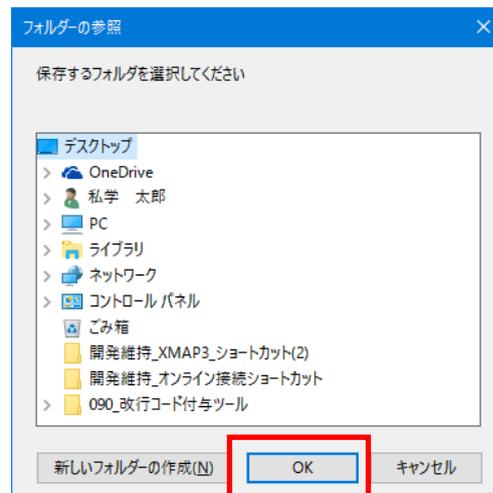
※ 医療機関に作成を依頼している場合は、ファイル形式(XML・CSV)を医療機関に確認のうえ当該ファイル形式に対応するチェックボタンを選択してください。

XMLファイルチェック実行	厚生労働省指定のフォーマットで作成されたXMLファイルのチェックを行います。
CSVファイルチェック実行	私学事業団が利用する「共同情報処理システム」への登録用フォーマットで作成されたCSVファイル(899項目)のチェックを行います。
提出データ等出力	全てのデータについて問題がなければ本ボタンをクリックしてください。 内訳報告書:ラベル(記入例)の出力を行います。

終了

② 出力先選択

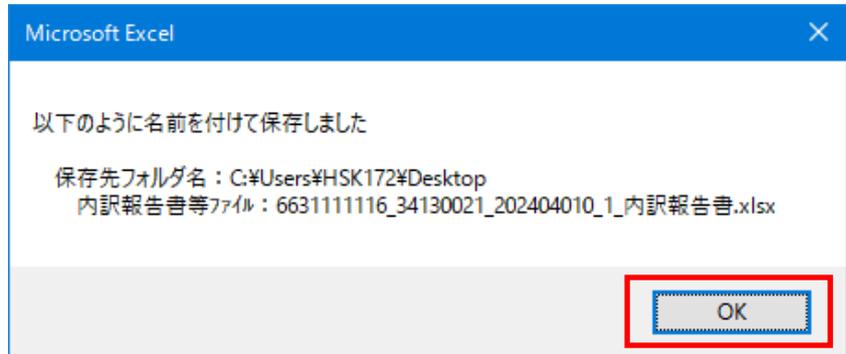
フォルダーの参照ダイアログが表示されるため、出力先を選択し、[OK]ボタンを押下してください。



データ出力

③ 出力確認

処理完了ダイアログに内訳報告書等ファイルの出力先が表示されるため、内容を確認し、[OK]ボタンを押下してください。



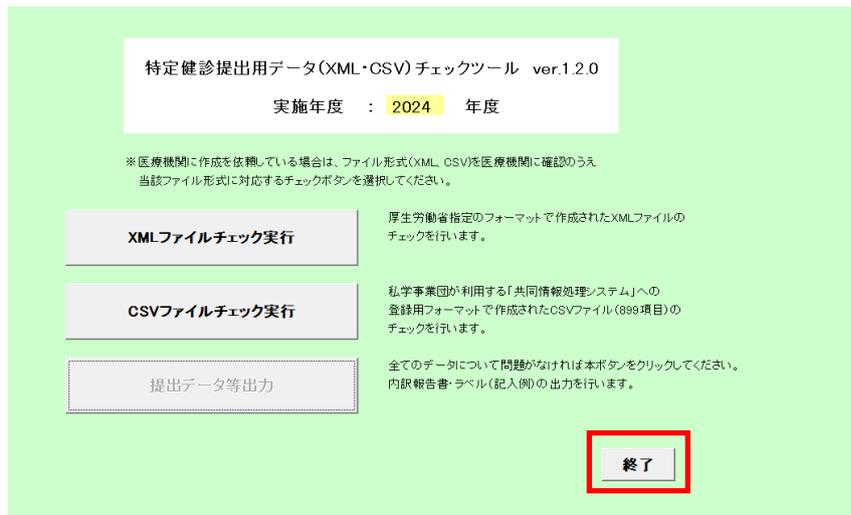
※内訳報告書ファイル名

選択した特定健診提出用データ名(拡張子なし) & 「_内訳報告書.xlsx」

本ソフトウェアの終了

(5) 本ソフトウェアの終了

[終了]ボタンを押下してください。



※ 変更保存のダイアログが表示されるため、必要に応じて保存を実行してください。

保存 : 変更を保存して本ソフトウェアを終了します。

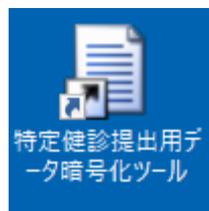
保存しない : 変更を保存しないで本ソフトウェアを終了します。

キャンセル : 終了処理をキャンセルします。

暗号化ツールの起動

(6) 暗号化ツールの起動

デスクトップからショートカット「特定健診提出用データ暗号化ツール」をダブルクリックし、本ソフトウェアと同時にインストールされた暗号化ツールを起動してください。



前提チェック

(7) 前提チェック

前提ツールの実行確認にチェック（✓）を入れてください。

特定健診提出用データ暗号化ツール v1.0

当ツールは以下2つの前提ツールのいずれかでチェック済みの特定健診提出用データの暗号化ツールとなります。
前提ツールでの「提出データ等出力」が完了していない場合は、ご使用になれません。

<前提ツール>

- ① 特定健診提出用データ (XML・CSV) チェックツール.xlsm
- ② 特定健診提出用データ入力・作成ツール.xlsm

1. 前提ツールで「提出データ等出力」が完了している。

2. 暗号化処理の選択

XMLファイル暗号化の実行

厚生労働省指定のフォーマットで作成されたXMLファイルの暗号化を行います。

CSVファイル暗号化の実行

私学事業団が利用する「共同情報処理システム」への登録用フォーマットで作成されたCSVファイルの暗号化を行います。
※前提ツール②で作成した場合はこちら

終了

暗号化

(8) 暗号化

① 処理実行

暗号化処理ボタンが有効となるため、(2)で選択した処理に合わせてボタンを押下してください。

厚生労働省指定フォーマット (XML) の場合 … ②

共同情報システム登録用フォーマット (CSV) の場合 … ③

暗号化

② 厚労省指定フォーマット（XML）の場合

②-1 厚労省指定フォーマット（XML）処理実行

[XML ファイル暗号化の実行]ボタンを押下してください。

特定健診提出用データ暗号化ツール V1.0

当ツールは以下2つの前接ツールのいずれかでチェック済みの特定健診提出用データの暗号化ツールとなります。
前接ツールでの「提出データ等出力」が完了していない場合は、ご使用になれません。

<前接ツール>

- ① 特定健診提出用データ（XML・CSV）チェックツール.xlsm
- ② 特定健診提出用データ入力・作成ツール.xlsm

1. 前接ツールで「提出データ等出力」が完了している。

2. 暗号化処理の選択

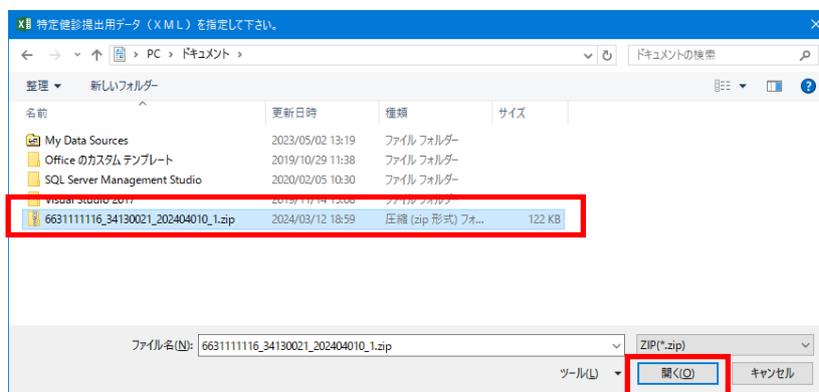
XMLファイル暗号化の実行 厚生労働省指定のフォーマットで作成されたXMLファイルの暗号化を行います。

CSVファイル暗号化の実行 私学事業団が利用する「共同情報処理システム」への登録用フォーマットで作成されたCSVファイルの暗号化を行います。
※前接ツールで作成した場合もこちら

終了

②-2 ファイル選択

ファイル選択ダイアログが表示されるため、(2) ③で選択した特定健診提出用データを選択し、[開く]ボタンを押下します。

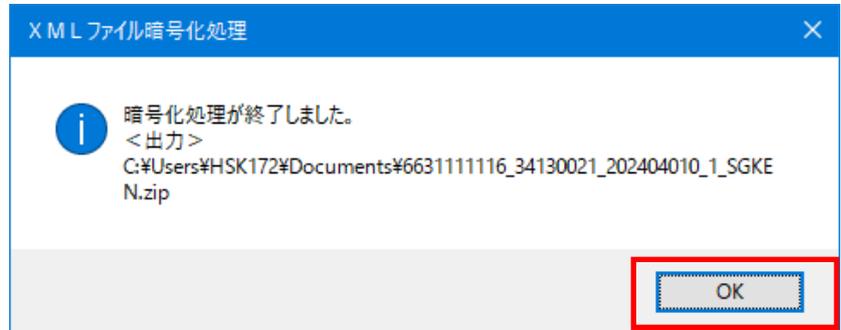


暗号化

②-3 暗号化

特定健診提出用データ（XML）の暗号化処理が行われ、処理完了ダイアログが表示されます。

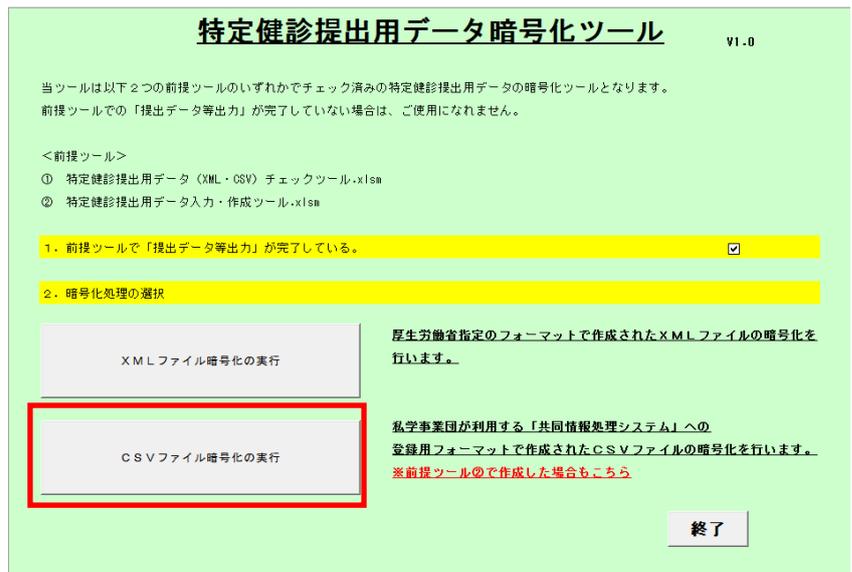
暗号化済特定健診提出用データの出力先を確認し、[OK]ボタンを押下してください。



③ 共同情報システム登録用フォーマット（CSV）の場合

③-1 共同情報システム登録用フォーマット（CSV）処理実行

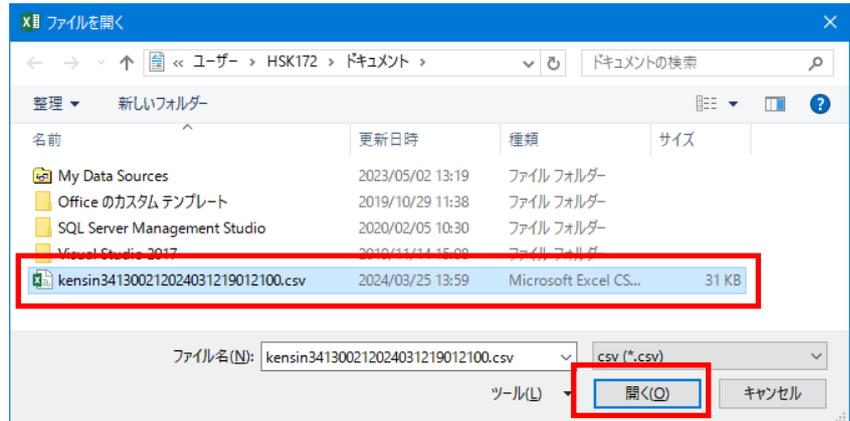
[CSV ファイル暗号化の実行]ボタンを押下してください。



暗号化

③-2 ファイル選択

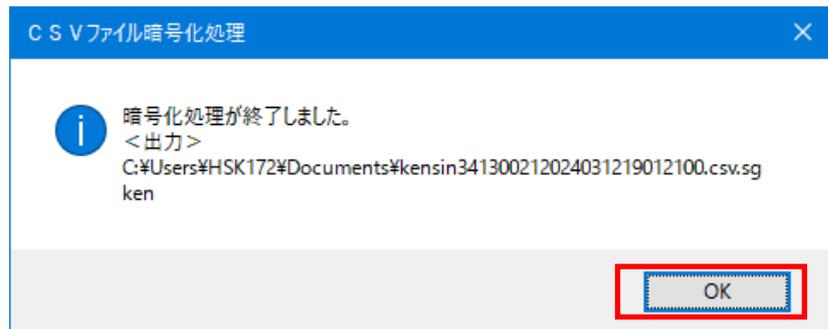
ファイル選択ダイアログが表示されるため、(2) ④で選択した特定健診提出用データを選択し、[開く]ボタンを押下します。



③-3 暗号化

特定健診提出用データ (CSV) の暗号化処理が行われ、処理完了ダイアログが表示されます。

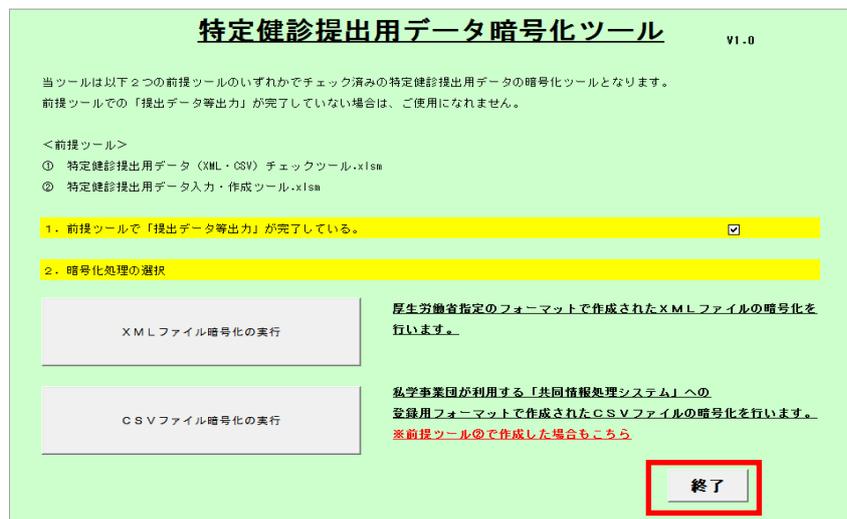
暗号化済特定健診提出用データの出力先を確認し、[OK]ボタンを押下してください。

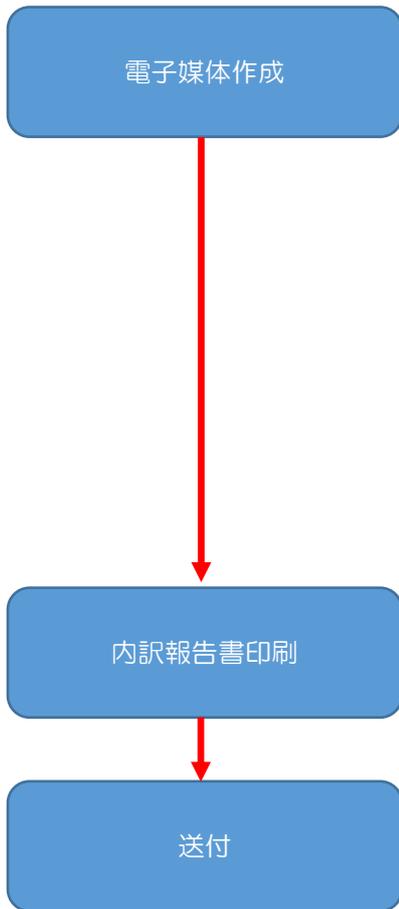


暗号化ツールの終了

(9) 暗号化ツールの終了

[終了]ボタンを押下してください。





(10) 電子媒体作成

① 保存

(8) で出力した暗号化済特定健診提出用データを電子媒体 (CD-R または USB) に保存してください。

② ラベル作成

(4) で出力した内訳報告書等データのラベル記入例シートを参照し、作成した電子媒体にラベルを作成してください。

※CD の場合は、ラベル貼付はせずに直接 CD の表面に書き込んで下さい。

(11) 内訳報告書印刷

(4) で出力した内訳報告書等データの内訳報告書シートを編集し印刷してください。

(12) 送付

(10) で作成した電子媒体、(11) で印刷した内訳報告書、その他添付資料を私学事業団宛に送付してください。

5. 電子媒体仕様

5.1 CD-R

(1) ハード仕様

項番	項目	内容
1	CD-R	一般的に市販されているデータ用CD-R。
2	ボリューム及び ファイル構成	ISO規格に従う。

(2) 注意事項

- ① CDを作成した場合は、必ずデータが読めることを確認してください。
- ② CDは傷や埃が付かないよう、ケースに入れて保管・送付してください。
- ③ CDの表面に文字等を書き込む場合は、油性マジック等を使用しないでCD専用ペンを使用してください。

別添1 文字コードについて

1. 使用可能文字コード一覧

本機能における使用可能文字コードを以下に記します。

使用可能コード範囲：1バイト文字

- 1バイト文字は JIS8 単位符号 (JIS X 0201-1976) を使用し、使用可能文字範囲は以下の通りとします。

※1 表中の空欄および網掛け部分は使用不可な文字範囲です。

※2 表中の太枠部分は本機能の入力時に使用可能な文字範囲です。

※3 表中の太枠部分および太枠部分以外は本機能の媒体チェック時に使用可能な文字範囲です。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P		p				-	タ	ミ		
1			!	1	A	Q	a	q			.	ア	チ	ム		
2			"	2	B	R	b	r			[イ	ツ	メ		
3			#	3	C	S	c	s]	ウ	テ	モ		
4			\$	4	D	T	d	t			,	エ	ト	ヤ		
5			%	5	E	U	e	u			.	オ	ナ	ユ		
6			&	6	F	V	f	v			フ	カ	ニ	ヨ		
7			'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8			(8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A			*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B			+	:	K	[k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C			,	<	L	¥	l				ヤ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M]	m	}			ユ	ス	ハ	ソ		
E			.	>	N	^	n	~			ヨ	セ	ホ	。		
F			/	?	O	_	o				ツ	リ	マ	°		

使用可能コード範囲：2バイト文字

- ・2バイト文字はシフト JIS コード（JIS X 0208-1990（JIS 第一水準、JIS 第二水準）で規定された文字をシフトした文字コード）を使用し、使用可能範囲は以下の通りとします。

項番	項目	内容	コード範囲	使用可否	使用可能コード範囲
1	特殊文字	特殊な図形をもち区切りや印などに用いる文字	8140	全て使用可	8140
2			8141～8164	全て使用可	8141～8164
3			8165～817A	全て使用可	8165～817A
4			817B～818A(※1) 81B8～81BF 81C8～81CE 81DA～81E8	一部使用不可	817B～818A(※1)
5			818B～8193 81F0～81F1	一部使用不可	818B～8193
6			8194～819E 819F～81AC 81F2～81F7 81FC	一部使用不可	8194～819E 819F～81AC
7	数字	0～9の10文字文字	824F～8258	全て使用可	824F～8258
8	ローマ字	A B～Zの大文字、a b～zの小文字	8260～8279 8281～829A	全て使用可	8260～8279 8281～829A
9	平仮名	旧仮名を含めた五十音、濁音、半濁音、拗音、促音の文字	829F～82F1	全て使用可	829F～82F1
10	片仮名	旧仮名を含めた五十音、濁音、半濁音、拗音、促音の文字	8340～8396(※1)	全て使用可	8340～8396(※1)
11	ギリシア文字	A B～Ωの大文字、α β～ωの小文字	839F～83B6 83BF～83D6	全て使用可	839F～83B6 83BF～83B6
12	ロシア文字	A B～Яの大文字、a b～яの小文字	8440～8460 8470～8491(※1)	全て使用可	8440～8460 8470～8491(※1)
13	漢字	第一、第二水準の文字	8890～988F(※2) 9890～EA9F	全て使用可	8890～988F(※2) 9890～EA9F
14	罫線素辺	細線、太線、混在素辺の文字	849F～84BE	全て使用不可	なし
15	その他領域	空領域	上記以外	全て使用不可	なし

※1 XX7F（下2桁が「7F」）は、文字コードシフト時に発生する未定義領域である為、使用不可。

※2 XX7F（下2桁が「7F」）、XXFD～XX3F（下2桁が「FD」～「3F」）、A0XX～DFXX（上2桁が「A0」～「DF」）

は、文字コードシフト時に発生する未定義領域である為、使用不可。

別添2 特定健診提出用データ暗号化ツールについて

1. 特定健診提出用データ暗号化ツールについて

私学事業団では特定健康診断結果の提出に際し、個人情報保護の観点から暗号化による保護を推奨しています。当ツールを使用することでパスワードのやり取りが不要となり、情報漏洩などの発生リスクはより低くなる見込みです。

ぜひご一読いただき情報保護へのご協力をお願い致します。

2. 提供機能について

2. 1 XMLファイル暗号化機能

ZIP圧縮された状態の厚生労働省指定フォーマットで作成された特定健診提出用データの暗号化を行う機能です。

2. 2 CSVファイル暗号化機能

共同情報処理システムの登録用フォーマットで作成された特定健診提出用データの暗号化を行う機能です。

特定健診提出用データ入力・作成チェックツールにより作成された特定健診提出用データもこちらの機能で暗号化が可能です。

3. 前提事項

当ツールは以下2つのチェックツールのいずれかのチェック処理において、特定健診提出用データが全て正常と判定されていることが前提となっています。

前提ツールで実施済であるフォルダ構成およびデータ項目のチェックは行っていない為、ご注意ください。

<前提ツール>

- ① 特定健診提出用データ（XML・CSV）チェックツール
- ② 特定健診提出用データ入力・作成チェックツール

4. 動作環境について

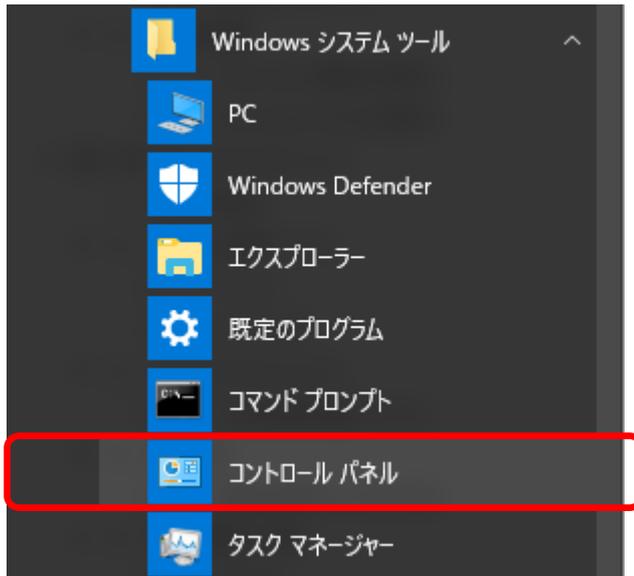
前提ツールの動作環境に加え「[dotNet Framework 3.5](#)」が必要となります。

以下の手順に従い、「dotNet Framework 3.5」がインストールされているか確認してください。

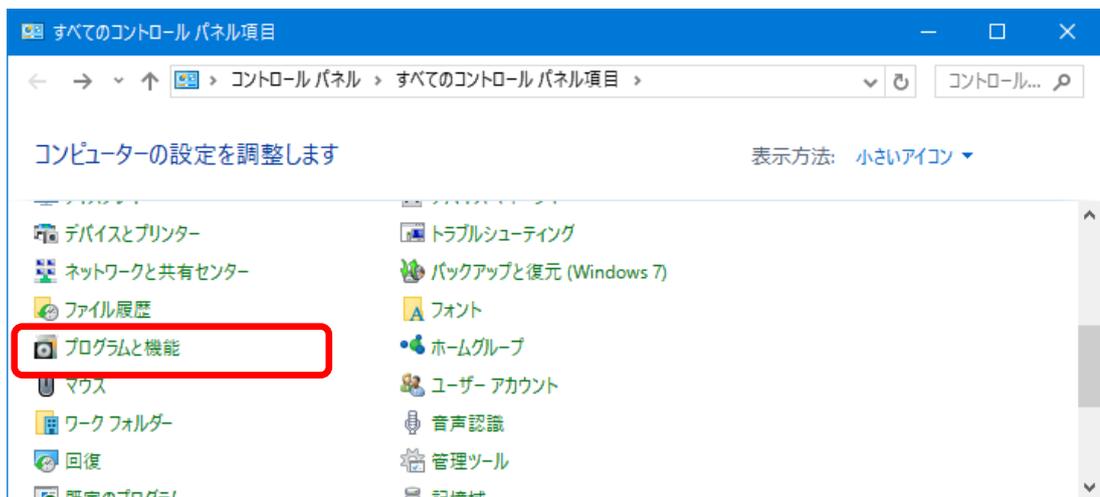
ただし暗号鍵を前提ツールがインストールされた端末に格納するため、dotNet Framework 3.5がインストール済である場合でも、インストール端末以外ではご利用になれません。

4. 1 PC に dotNet Framework 3.5 がインストールされているか確認する方法

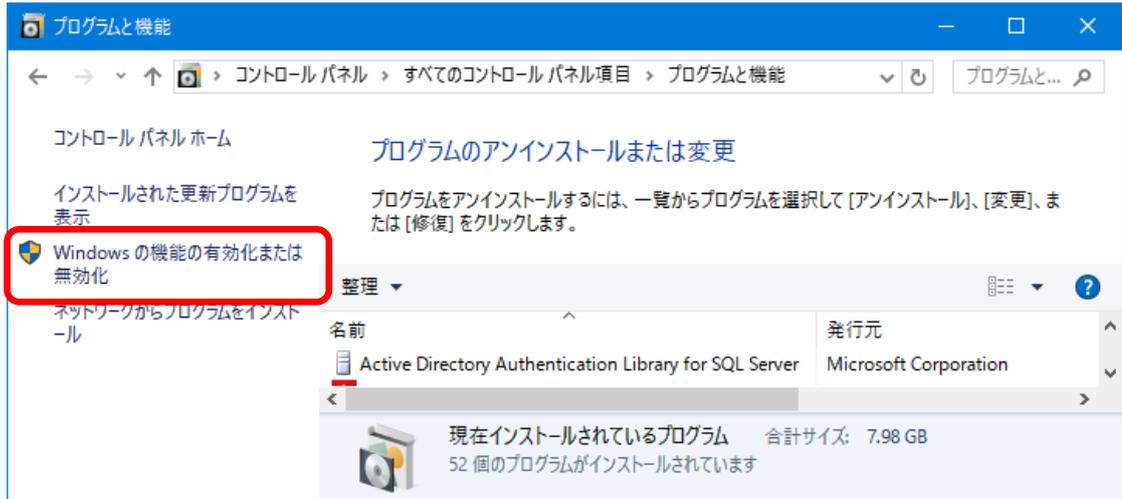
- (1) Windows メニューの Windows システムツールよりコントロールパネルをクリックします。



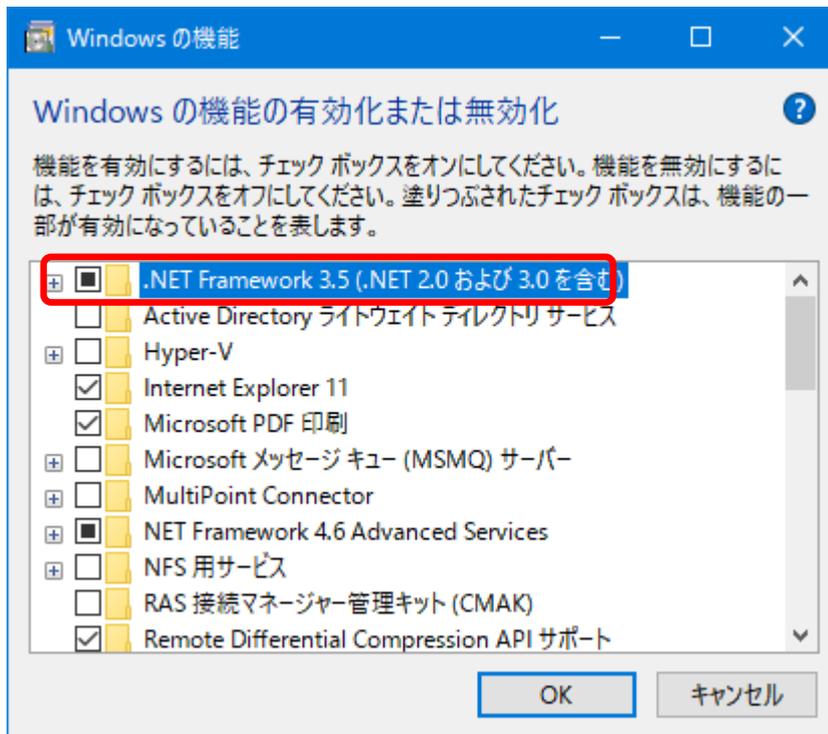
- (2) 「プログラムと機能」をクリックします。



(3) 左メニュー「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックします。



(4) Windows の機能が表示されるため、「.Net Framework 3.5～」の左側のチェックボックスを確認します。



※ チェックボックスの状態について

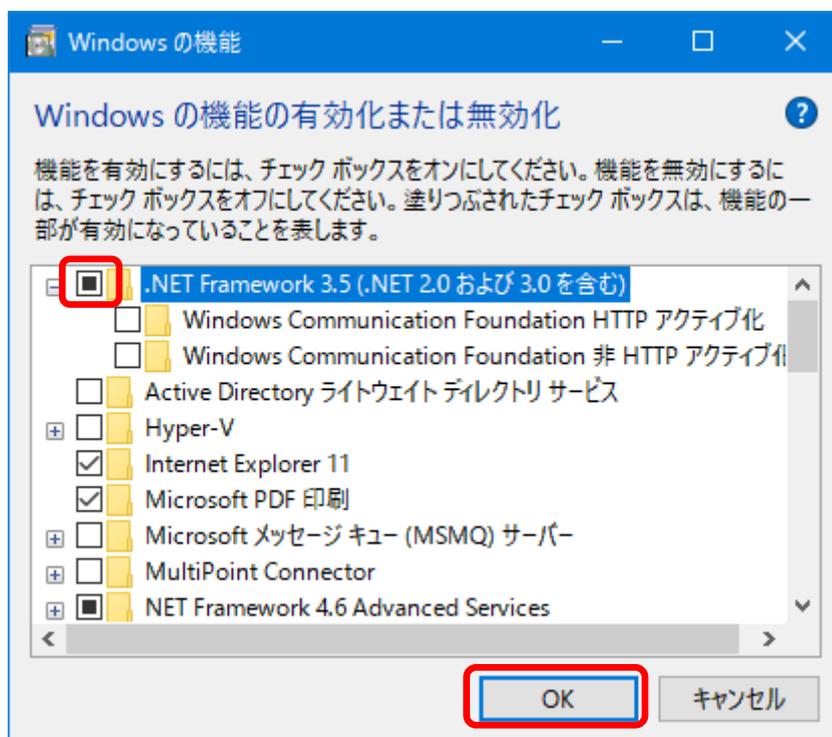
- or : dotNet Framework 3.5 はインストールされている状態です。
- : dotNet Framework 3.5 はインストールされていない状態です。

頂番4. 2を参照しインストールを行ってください。

4. 2 dotNet Framework 3.5 をインストールする方法

(1) インターネットに接続されている場合

- ① Windows の機能で「.Net Framework 3.5～」の左側のチェックボックスをクリックしてください。
- ② チェックボックスが有効 (or) になっていることを確認し、[OK]ボタンを押下してください。



- ※ 後は自動的にインストールされます。
- ※ PC 環境によっては失敗することがあります。

(2) インターネットに接続されていない場合

私学事業団 HP に掲載されている、dotNet Framework 3.5 のインストーラにてインストールを行ってください。

5. イメージ

「特定健診提出用データ暗号化ツール」を開くと以下のような画面が表示されます。

特定健診提出用データ暗号化ツール v1.0

当ツールは以下2つの前提ツールのいずれかでチェック済みの特定健診提出用データの暗号化ツールとなります。
前提ツールでの「提出データ等出力」が完了していない場合は、ご使用になれません。

<前提ツール>

① 特定健診提出用データ (XML・CSV) チェックツール.xlsm
② 特定健診提出用データ入力・作成ツール.xlsm

1. 前提ツールで「提出データ等出力」が完了している。

2. 暗号化処理の選択

XMLファイル暗号化の実行

厚生労働省指定のフォーマットで作成されたXMLファイルの暗号化を行います。

CSVファイル暗号化の実行

私学事業団が利用する「共同情報処理システム」への登録用フォーマットで作成されたCSVファイルの暗号化を行います。
※前提ツール②で作成した場合もこちら

終了

6. 動作

項番	動作	内容
1	前提確認チェックボックスの変更	✓あり：項番2・3のボタンを押下可能にします。 ✓なし：項番2・3のボタンを押下不可にします。
2	[XMLファイル暗号化の実行]ボタン押下	(A) 暗号化対象ファイルの選択ダイアログが表示されます。 ファイルを選択し、[開く(O)]ボタンを押下します。 (B) 選択したファイルを一時フォルダに解凍します。 (C) 解凍先で暗号対象ファイル(XML)を検索し、暗号化処理を行い、暗号化した元ファイルは削除します。 (D) 全ての暗号化対象の処理が完了したら、ZIP形式にて再圧縮し、一時フォルダを削除します。 (E) 処理完了ダイアログを表示します。
3	[CSVファイル暗号化の実行]ボタン押下	(A) 暗号化対象ファイルの選択ダイアログを表示されます。 ファイルを選択し、[開く(O)]ボタンを押下します。 (B) 選択したファイルの暗号化処理を行います。 (C) 処理完了ダイアログを表示します。
4	[終了]ボタン押下	アプリケーションを終了します。

7. 暗号化済ファイルの名称について

暗号化処理後の各名称は以下の通り。

① XMLファイル

入力ファイルの名称に拡張子「.sgken」を付与する。

<暗号化前>

hXXXXXXXXXXYYYYMMDDnn000001.xml

<暗号化後>

hXXXXXXXXXXYYYYMMDDnn000001.xml.sgken

② ZIPファイル

入力ファイルの名称の拡張子前に「_SGKEN」を付与する。

<暗号化前>

XXXXXXXXXX_34130021_YYYYMMDDn_1.zip

<暗号化後>

XXXXXXXXXX_34130021_YYYYMMDDn_1_SGKEN.zip

③ CSVファイル

入力ファイルの名称に拡張子「.sgken」を付与する。

<暗号化前>

kensin34130021YYYYMMDDhhmmss00.csv

<暗号化後>

kensin34130021YYYYMMDDhhmmss00.csv.sgken